

2年後の就農、独立を目指して

農業研修生の認証授与式行われる

3月26日、新ひだか町役場静内庁舎において、茨城県日立市出身の松山宏（まつやま ひろし）さん・裕美（ゆみ）さん夫妻、札幌市出身の佐藤誠宏（まこと）まさひろ）さんの3名に、新ひだか町農業担い手育成支援協議会から農業研修生としての認証が授与されました。

この研修生の受け入れは、町をはじめ、しずない・みついしの両JAなど各農業関係機関から組織される本協議会が、就農意欲のある人材を積極的に受け入れていこうと平成24年度より新たに始めた事業で、就農を目指す夫妻世帯が対象の「農業チャレンジャー支援対策事業」の松山さん夫妻は、現在、東別地区の有田春男さんのもとで農業研修生として研修を受けています。また、高齢化や担い手不足など地域農業が抱える課題を解決するためのヘルパー育成を目的とした「がんばるー農業サポート事業」の佐藤さんは、本沢地区の中道雅則さんのもとで研修を受け、それぞれ2年後の就農、独立を目指します。

認証授与後には、松山さん、佐藤さんから今後の研修に対する抱負などが宣誓され、本協議会の会長でもある酒井芳秀町長から激励の言葉を授けていました。



緊張した面持ちの3名です。
(左から松山裕美さん、宏さん、佐藤誠宏さん)



認証を授与され、皆さん意欲に燃えています！

昨年以上の成績を目指して

静内そ菜振興会ミニトマト部会講習会行つ

3月16日、日高生産連ビル3階第1会議室において、静内そ菜振興会ミニトマト部会（部会長 中道雅則 部会員37名）で、講習会を行いました。苗の定植も一段落したこの時期に行われた本講習会では、ブランドミニトマト「太陽の瞳」生産者15名をはじめ、各農業関係機関4名、当JA職員5名の計24名が参加。

この日は、「静内のミニトマト栽培」「ミニトマトの経営診断」という2つのテーマで講習が行われ、日高農業改良普及センターの橋本和幸専門普及指導員と当JA営農部生産課の西岡敬司課長補佐が資料に沿ってそれぞれ講習を行いました。

昨年、同部会では過去最高となる7億2000万円の販売金額を達成しており、今年も昨年以上の販売金額を目指し、そして、「太陽の瞳」の更なる品質向上へ向けて、参加した生産者たちも熱心に講習に耳を傾けていました。



昨年以上の成績を目指し、熱心に耳を傾けています。



聞くだけでなく、視覚でも知識を吸収します。